

仁王門

仁王門には、猛々しい守護尊が四尊祀られ、境内を悪から守っている。正面向かって左右にはそれぞれ、力強く立派な密迹金剛と那羅延金剛がいる。かつて赤色であったことから、「朱振りの仁王尊(訳注：英語では Vermillion Kings)」とも呼ばれている。裏の左右にはそれぞれ、福德を授ける多聞天と仏心を起こさせる廣目天がいる。彼らは遠くまで見聞きする力があり、いかなるものも見逃さず新勝寺をしっかりと守っている。

この八脚門は 1831 年に建てられ、現在は日本の重要文化財に指定されている。その材料、デザイン、彫刻は近代初期の寺院建築の典型である。正面にある大きな額は、奈良にある東大寺の別当(訳注：英語では chief administrator)である高僧・道恕上人の筆であり、「成田山」と書かれている。また、門柱にはられた紙切れは、巡礼者が寺院への訪問を記念するために残したものである。